

Ⅱ-5 言葉掛けを見直してみませんか

エピソード

3歳の弘くんは、朝なかなか起きられません。お母さんは毎朝「さっさと起きて!服を着替えてご飯を食べなさい!保育園に遅れるでしょう?」と大きな声で起こします。

ある朝いつものようにようやく起きてきた弘くんは、なかなか身支度をしません。パジャマのまま台所のお母さんの足元で「お母さ～ん…」と弱々しい声を出しています。

お母さんは「昨日の夜、一回起こされたら自分ですぐに着替えてご飯を食べるって、お母さんと約束したでしょ!あら!またおねしょ!おねしょしないってさんざん約束したじゃないの!なぜ約束を守れないの?」と、すぐに弘くんを大声で怒鳴って責めてしまいます。弘くんにはたくさんの約束がありますが、なかなか守れません。



Work① どうして弘くんは約束を守れないのでしょうか。

Work② 約束を守れないことに対して弘くんはどのように思っているのでしょうか。

アドバイス

この「約束」は弘くんも納得し、弘くんが一人でちゃんと守れるレベルのものでしょうか。

ここでお母さんの言う「約束」とは、「指示・命令」に当たります。「約束」という言葉に置き換えることによって、弘くんに責任を負わせ、約束を守れない弘くんが悪いということにできてしまっています。こうした複雑なコミュニケーションは、子どもを混乱させます。



Work③

あなたは普段、以下のような言葉掛けをしていませんか。
a～fの中で子どもを混乱させる言葉掛けはどれでしょうか。

- a お母さんに言われてお手伝いするようではだめよ
- b お友だちとは誰とでも仲良くしなさい、でも〇〇くんには気をつけなさい
- c (転んだ子どもに対して) 痛くないよ、痛くないよね
- d おなか空いたでしょ、疲れたでしょ、眠いに決まってるよね
- e 弘くんがニンジン食べないって、お父さん怒ってたよ
- f そんなことをすると保育園の先生に叱られるよ



Work④

子どもに対する言葉掛けで気付いたことを書きましょう。

資料

これらはすべて危険なコミュニケーションです。

Ⓐ ダブルバインド(二重拘束)・コミュニケーション: a b

矛盾する2つのメッセージが同時に命令・禁止の表現で語られることを言います。どちらの命令に従っても許されず、いわばT字路の両端のどちらにも進めない状態です。

Ⓑ 先取りコミュニケーション: c d

相手が自分で感じたり考えたりする一歩前に、相手の感覚や考え・行動を決め付けていってしまっています。

Ⓒ 責任転嫁のコミュニケーション: e f

話し手が自分の考えや感情を言わないで、代わりに他者の意見として伝えるものです。

いずれも日常的に意識せず使ってしまうがちな表現です。これらは子どもを巧妙にコントロールすることに非常に優れていますが、子どもの自立のために成長に応じてこうした表現を少なくしていかなければなりません。普段の子どもへの言葉かけを見直してみましょう。

【参考・引用:黒沢幸子「指導援助に役立つスクールカウンセリング・ワークブック」金子書房】